

アメリカの社会保障研究の今日—医療

——医療の質と効率性に関する研究を中心に——

池田俊也
池上直己

I. アメリカにおける医療保障研究の現状

アメリカの医療保障に関する研究資料としては、アメリカ政府機関の公開資料や多くの研究施設の発表論文など、わが国でも多くの情報が入手可能である。筆者らは、医療サービスに関する研究論文としては Health Affairs 誌、Health Care Financing Review 誌、Medical Care 誌など、医療経済については Health Economics 誌、Pharmacoeconomics 誌などを参考にすることが多い。さらに、New England Journal of Medicine 誌や JAMA (Journal of American Medical Association) 誌などの医学雑誌や Science 誌といった科学雑誌にも、医療関連の優れた研究成果が報告されることがある。近年は、医療改革案や無保険者問題などの医療政策研究とともに、医療の質や効率性に関する実証研究が数多く報告されている。また、スタンフォード大学やミシガン大学などで行われている医療システムの日米比較研究^{1)~2)}も、一定の成果をあげている。

わが国でもアメリカの医療保障に関する研究は盛んであり、1994年に発表された国内論文だけをみても医療改革に関する多数の論文をはじめ

め^{3)~14)}、筆者らが渉猟し得た範囲でも最新の知見が幅広く紹介されている^{15)~24)}。本誌でも No. 108 (1994年夏号) のアメリカの医療保障に関する特集号において第一線の研究者らによる6本の論文が寄稿されており^{12)~17)}、これらの論文との重複を避ける意味から、本稿ではアメリカにおける医療の質と効率性に関する最近の研究動向を中心に述べることにする。このテーマを取り上げる理由は、医療の質と効率性に関する研究はわが国ではきわめて立ち遅れているが、わが国のこれからの医療政策における最大課題と考えられ、アメリカの研究の現状から学ぶべき点がきわめて多いと思われるからである。

II. アメリカにおける医療の質と効率性に関する研究動向

アメリカでは医療費の高騰が社会問題化し、医療の質の保証とともにその効率化が最大目標とされている。アメリカ医療のマクロレベルでの効率性の悪さはよく指摘される点であるが²⁴⁾、臨床現場においても必ずしも効率的ではないことが示唆されてきている。特に、医師の診療パターンに説明不可能なばらつきが大きいことが明らかにされて以来^{25)~26)}、医師自らも最

善の治療方針を把握していないことが医療における根源的な問題と認識されるようになり²⁷⁾、医療行為の質を保証し効率性を向上させることを目的としたいわゆる「医療サービス研究」が活発化した。中でも、RAND 研究所はアメリカ有数の医療サービス研究施設として数々の革新的な研究を行ってきており、近年は医療行為の「適切性 (appropriateness) に関する研究」を相次いで発表し注目を集めている²⁸⁻³⁶⁾。また、アメリカ政府も「医療の質、適切性、効率、および医療サービスへのアクセスを向上する」目的で、1989年に AHCPR (Agency for Health Care Policy and Research) を設立し、年間2億ドル近い予算規模のもとで、数々の医療サービス研究をサポートしている^{37,38)}。AHCPR では特にアウトカム研究に力が注がれており、総予算のほぼ1/3がアウトカム研究に利用されているほか、その成果を診療ガイドラインとしてまとめ診療現場へのフィードバックを行っている。以下に、RAND 研究所および AHCPR における最近の研究動向につき概説する。

1. RAND 研究所における医療の適切性に関する研究

RAND 研究所の Brook らは、1980年代中旬より、「ある医療行為の施行率の地域差や施設間の差はそれが適切に施行された率によって説明できる」との仮説を証明するため^{28,29)}、個々の医療行為についてその適応の適切性 (appropriateness) を評価する方法論を構築し、冠血管造影、頸動脈内膜切除術、内視鏡、冠血管バイパス術などをはじめとする数々の疾患について「適切性の研究」を行ってきた³⁰⁻³⁶⁾。その方法は、まず、さまざまな病態の患者を仮定し、各々の患者にある特定の治療法を施行することが適

切であるかどうかについて、9人の専門家にアンケート調査を行い、その結果を統合して判断基準を作成する。次に、保険請求用の患者データなどに対し判断基準を適用し、「適切」あるいは「不適切」と判断された率を算出するというものである³⁹⁾。これまでの研究では、多くの医療行為についてその15~30%が不適切であると報告されてきた²⁵⁻²⁹⁾。最新の報告としては、全米で最も件数の多い手術である鼓膜チューブ留置術の適切性を本手法を用いて評価し、27%が不適切であるとの報告がなされている⁴⁰⁾。この結果は全米のマスコミでも大きく報じられ、衝撃的事実として話題となった。しかしながら本報告に対しては、本研究のアンケートに協力した医師も含め臨床医より批判が相次ぎ、特に研究手法に内在する問題点や判断基準作成過程の密室性について批判が述べられている^{41,42)}。このほかにも、本手法についてはその妥当性につき近年数多くの批判が寄せられており⁴³⁻⁴⁶⁾、方法論の再検討が必要とも考えられる。

2. AHCPR による医療行為のアウトカム研究

医療の質を評価する際にはさまざまな観点があり、Donabedian⁴⁷⁾の分類はその方法論を構造、プロセス、アウトカムに分類している。従来、アウトカムは最も測定が困難であるとされていたが、80年代末に膨大な患者データを一括処理するデータベースシステムの発展とともに、日常発生する患者の臨床データや費用データなどをもとに、特定の医療技術についてその有効性や効率性を比較検討する「アウトカム研究」が盛んに行われるようになった⁴⁸⁾。アメリカでは AHCPR の援助により、現在数多くのアウトカム研究が進行中であるが、中でも PORT

(Patient Outcomes Research Teams) が良く知られている⁴⁹⁾。PORT は、糖尿病、肺炎、胆石症といった、最善の治療方針についてコンセンサスが得られていない一般的な疾患を対象とした、大規模なアウトカム研究である。筆者らが入手した胆石症の PORT の中間報告書によると、すでに患者2,000人に対し1年間にわたり聞き取り調査が行われたほか、病院と外科医へのアンケート調査、診療録や退院患者記録、Medicare 請求データ、関連文献の検索などをデータ源としており、膨大なデータ収集と解析が行われつつある。

このほか、AHCPR がサポートしたアウトカム研究として Medical Outcome Study が優れた成果を上げている。本研究は20,000人以上の慢性疾患（高血圧、冠疾患、糖尿病、鬱病）患者を対象として、地域差、医師の専門性の差（一般医/専門医）、医療システムの差（HMO、グループ診療、一般医）などにより、診療スタイルやアウトカム、費用などが異なるかどうかを調査したものである⁵⁰⁾。診療スタイルとしては、診療日数、紹介の有無、処置・検査・処方量のほか、医師の態度や患者の治療方針決定への参加状況など、またアウトカムとしては、健康状態に対する患者自身の評価や、治療への満足度についても調査した。その結果、慢性疾患患者の健康状態やケアの現状の詳細が明らかになった⁵¹⁾のみならず、出来高払い方式の一般医では HMO の場合より入院、外来通院回数、処方薬数などが多いこと、専門医は一般医よりも処方数、検査数、入院数が多いことなど、医療システムの違いが患者ケアに与える影響も明らかにされている⁵²⁾。また、本研究において作成された患者の健康状態測定用フォーム SF-36は有用性が高く、標準的ツールの一つとして全世界で

利用されはじめている^{53,54)}。

アウトカム研究は、このように有意義な成果が認められる一方で、研究方法の問題点や限界も次第に明らかになりつつある。特に、分析のもととなるデータは他の目的で収集されたものを流用することが多くその信頼性に問題があること、retrospective な検討では患者特性の調整が困難であること、アウトカム研究の結果に全面的な信頼を寄せることは医師の裁量権や患者の個別性を無視する結果となる可能性があることなどが指摘されており^{37,48,55)}、アウトカム研究の有用性を疑問視する意見もあるが、より膨大な費用と時間を要する従来の無作為化比較臨床試験の一部を代替しうる方法論として、今後もアメリカにおける医療サービス研究の中心となる手法であると考えられる。

AHCPR ではアウトカム研究の成果をもとに診療ガイドラインの作成を進め、すでに一般的な15病態を対象としたガイドラインが公表されているほか、この診療ガイドラインをもとに診療評価指針を作成し医療評価と医療の質の向上に役立てる試みも進行中である⁵⁶⁾。

III. おわりに

以上、アメリカにおける医療の質と効率に関する研究状況を概説した。医療の質と効率に関連する最近の進歩としては、HCFA (Health Care Financing Administration) によるメディケアの「医療の質の向上プログラム (Health Care Quality Improvement Program)」の開始⁵⁷⁾、JCAHO (Joint Commission on Accreditation of Health Care Organizations) による「病院機能評価指標」の改良⁵⁸⁾、長期ケアにおける高齢者ケアプランの開発と利用⁵⁹⁾、各医

療施設における「全社的品質改善 (TQM)」の成果に関する報告^{60~63)}なども注目されるが、紙面の制約からこれらについては別の機会に紹介することとする。

本稿執筆にあたり、厚生省社会・援護局広井良典氏に貴重な助言を賜りました。また厚生省薬務局森賀三恵氏には資料の入手にあたり協力を頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

資料請求・問合せ先

The RAND Corporation

1700 Main Street, P.O. Box 2138, Santa Monica, CA90407, USA

(310) 393-0411

Agency for Health Care Policy and Research

2101 East Jefferson Street, Rockville, MD20852, USA

(800) 358-9295

The Medical Outcome Trust (SF-36 の配布元)

200 Park Plaza, Suite 1014, Boston, MA02116-4313, USA

(617) 426-4046, Fax (617) 426-4131

参考文献

- 1) Okimoto, D.I. and Yoshikawa, A. eds. 1993 *Japan's Health Care System. Efficiency and Effectiveness in Universal Care*, Faulkner & Gray.
- 2) Ikegami, N. and Campbell, J.C. eds. (forthcoming) *Controlling costs in Japanese health care*, Michigan University Press.
- 3) 西村由美子, アキ・ヨシカワ 1994「米国の医療改革を読む(2)」『社会保険旬報』No. 1828
- 4) 池原 学 1994「米国医療制度改革の限界と可

能性」『社会保険旬報』No. 1846

- 5) 島崎謙治 1994「米国の医療保障制度改革の展望」『週刊社会保障』No. 1795~No. 1811 (16回連載)
- 6) 藤田伍一 1994「クリントンの医療改革構想」『週刊社会保障』Vol. 48 No. 1773
- 7) 町田洋次 1994「クリントンの医療保険改革から何を学ぶか」『週刊社会保障』Vol. 48 No. 1775
- 8) 府川哲夫 1994「アメリカの医療改革にみるシンクタンクの役割」『週刊社会保障』Vol. 48 No. 1812
- 9) 松本幸弘 1994『アメリカの医療改革』東洋経済新報社
- 10) 厚生行政研究会 1994「アメリカの医療改革」『病院』Vol. 53 No. 112.
- 11) 西村周三, 他 1994「米国の医療改革の動向—日本の視点から」『日本医師会雑誌』Vol. 112 No. 2.
- 12) 矢野 聡 1994「クリントン改革とマネジド・コンペティションについて」『海外社会保障情報』No. 108
- 13) 平岩 勝 1994「医療改革をめぐる米国議会の動き」『海外社会保障情報』No. 108
- 14) 西村由美子 1994「保障の拡大・コストの削減：米国の医療制度改革」『海外社会保障情報』No. 108
- 15) 川渕孝一 1994「メディケアにおける診療報酬制度の改正」『海外社会保障情報』No. 108
- 16) 広井良典 1994「アメリカの医療政策と医学研究振興政策 日本は何を学ぶるか」『海外社会保障情報』No. 108
- 17) 田中 滋 1994「米国の医療供給システム 病院経営の変遷を切り口に公正と効率を考える」『海外社会保障情報』No. 108
- 18) 川渕孝一 1994「米国の医師診療報酬 RBRVSの全貌」『社会保険旬報』No. 1848 ~連載中
- 19) 広井良典 1994「ヒト遺伝子研究の意味するもの」『社会保険旬報』No. 1856~No. 1858 (3回連載)
- 20) 高木安雄 1994「アメリカにおける老人ケアと日本の課題 在宅ケアと施設ケアの質の向上について」『海外社会保障情報』No. 106

- 21) 二木 立 1994「私の見たアメリカ医療」『社会保険旬報』No. 1854～No. 1858 (4回連載)
- 22) 印南一路 1994「医薬品産業における研究開発有望分野と日米比較」『医療と社会』Vol. 4 No. 1
- 23) 広井良典 1994『医療の経済学』日本経済新聞社
- 24) 二木 立 1994『「世界一」の医療費抑制政策を見直す時期』勁草書房
- 25) Wennberg, J. Gittelsohn, A. 1982 "Variations in Medical Care among Small Areas," *Scientific American* Vol. 246 No. 4
- 26) Chassin, M.R. 1986 "Variations in the Use of Medical and Surgical Services by the Medicare Population," *New England Journal of Medicine* Vol. 314 No. 5
- 27) Eddy, D.M. 1984 "Variations in Physician Practice: The Role of Uncertainty," *Health Affairs* Vol. 3 No. 2
- 28) Chassin, M.R. *et al.* 1987 "Does Inappropriate Use Explain Geographic Variations in the Use of Health Care Services? A Study of Three Procedures," *JAMA* Vol. 258 No. 18
- 29) Leape, L.L. *et al.* 1990 "Does Inappropriate Use Explain Small-area Variations in the Use of Health Care Services?" *JAMA* Vol. 263 No. 5
- 30) Winslow, C.M. *et al.* 1988 "The Appropriateness of Carotid Endarterectomy," *New England Journal of Medicine* Vol. 318 No. 12
- 31) Winslow, C.M. *et al.* 1988 "The Appropriateness of Performing Coronary Artery Bypass Surgery," *JAMA* Vol. 260 No. 4
- 32) Brook, R.H. *et al.* 1990 "Predicting the Appropriate Use of Carotid Endarterectomy, Upper gastrointestinal Endoscopy, and Coronary Angiography," *New England Journal of Medicine* Vol. 323 No. 17
- 33) Bernstein, S.J., *et al.* 1993 "The Appropriateness of Hysterectomy: A Comparison of Care in Seven Health Plans," *JAMA* Vol. 269 No. 18
- 34) Leape, L.L., *et al.* 1993 "The Appropriateness of Use of Coronary Artery Bypass Graft Surgery in New York State," *JAMA* Vol. 269 No. 6
- 35) Hilborne, L.H. *et al.* 1993 "The Appropriateness of Use of Percutaneous Transluminal Coronary Angioplasty in New York State," *JAMA* Vol. 269 No. 6
- 36) Bernstein, S.J., *et al.* 1993 "The Appropriateness of Use of Coronary Angioplasty in New York State," *JAMA* Vol. 269 No. 6
- 37) Anderson, C. 1994 "Measuring what works in health care," *Science* Vol. 263 No. 5150
- 38) AHCPR 1994 "Agency for Health Care Policy and Research," *AHCPR Fact Sheet* AHCPR Pub. No. 94-0068
- 39) Brook, R.H. *et al.* 1986 "A Method for the Detailed Assessment of the Appropriateness of Medical Technologies," *International Journal of Technology Assessment in Health Care* Vol. 2 No. 1
- 40) Kleinman, L.C. *et al.* 1994 "The Medical Appropriateness of Tympanostomy Tubes Proposed for Children Younger than 16 Years in the United States," *JAMA* Vol. 271 No. 16
- 41) Johns, M.E. 1994 "Editorial Comment. The Medical Appropriateness of Tympanostomy Tubes Proposed for Children Younger than 16 Years in the United States," *Archives of Otolaryngology-Head & Neck Surgery* Vol. 120 No. 8
- 42) Bluestone, C.D. *et al.* 1994 "'Appropriateness' of Tympanostomy Tubes. Setting the Record Straight," *Archives of Otolaryngology-Head & Neck Surgery* Vol. 120 No. 10
- 43) Phelps, C.E. *et al.* 1993 "The Methodologic Foundations of Studies of the Appropriateness of Medical Care," *New England Journal of Medicine* Vol. 329 No. 17
- 44) Kassirer, J.P. 1988 "The Quality of Care and the Quality of Measuring It," *New England Journal of Medicine* Vol. 329

- No. 17
- 45) Mulley, A.G., Eagle, K.A. 1988 "What is Inappropriate Care?" *JAMA* Vol. 260 No. 4
- 46) Hicks, N.R. 1994 "Some Observations on Attempts to Measure Appropriateness of Care," *BMJ* Vol. 309 No. 6956
- 47) Donabedian, A. 1968 "Promoting Quality through Evaluating the Process of Patient Care," *Medical Care* Vol. 6 No. 3
- 48) Epstein, A.M. 1990 "The Outcome Movement—Will It Get Us Where We Want To Go?," *New England Journal of Medicine* Vol. 323 No. 4
- 49) AHCPR 1994 "Medical Treatment Effectiveness Program. Patient Outcomes Research Teams—PORTs and PORT-IIs," *AHCPR Fact Sheet* AHCPR Pub. No. 94-0083
- 50) Tarlov, A.R. 1989 "The Medical Outcome Study. An Application of Methods for Monitoring the Results of Medical Care," *JAMA* Vol. 262 No. 7
- 51) Stewart, A.L. *et al.* 1989 "Functional Status and Well-being of Patients with Chronic Conditions. Results from Medical Outcomes Study," *JAMA* Vol. 262 No. 7
- 52) Greenfield, S. *et al.* 1992 "Variations in Resource Utilization among Medical Specialties and Systems of Care. Results from Medical Outcomes Study," *JAMA* Vol. 267 No. 12
- 53) Ware, J.E., Sherbourne, C.D. "The MOS 36-item Short-form Health Survey (SF-36). I. Conceptual Framework and Item Selection," *Medical Care* Vol. 30 No. 6
- 54) Aaronson, N.K. *et al.* 1992 "International Quality of Life Assessment (IQOLA) Project," *Quality of Life Research* Vol. 1 No. 5
- 55) Tanenbaum, S.J. 1988 "What Physicians Know," *New England Journal of Medicine* Vol. 329 No. 17
- 56) Burney, R.E. 1994 "Review Criteria Aren't What They Used To Be," *Journal of Quality Improvement* Vol. 20 No. 9
- 57) Vladeck, B.C. *et al.* 1994 "The Health Care Quality Improvement Program: A Progress Report," *JAMA* Vol. 271 No. 24
- 58) Roberts, J.S. *et al.* 1992 "The New Accreditation System. An Overview from the Joint Commission on Accreditation of Healthcare Organizations," in R.P. Winzel, ed., *Assessing Quality Health Care*, Williams & Wilkins.
- 59) Ikegami, N. 1995 "Functional Assessment and Its Place in Health Care," *New England Journal of Medicine* Vol. 332 No. 9
- 60) Bingham, J. 1993 "The Magic Valley Experience in Health Care Quality Improvement," in N. Goldfield, M. Pine and J. Pine, eds., *Measuring and Managing Health Care Quality*, Aspen Publishers.
- 61) Hallum, A. *et al.* 1993 "Quality Comes to Life: Stories in Obstetrics," *Quality Management in Health Care* December 1993
- 62) Pachciarz, J.A. *et al.* 1992 "Continuous Quality Improvement of Pap Smears in an Ambulatory Care Facility," *QRB.—Quality Review Bulletin* Vol. 18 No. 7
- 63) Kibbe, D.C. *et al.* 1993 "Continuous Quality Improvement for Continuity of Care," *Journal of Family Practice* Vol. 36 No. 3
- (いけだ・しゅんや
慶応義塾大学医学部病院管理学教室)
- (いけがみ・なおき
慶応義塾大学総合政策学部・医学部教授)